

## 琵琶湖(湖心部)の水質概況速報(平成 28 年度(2016 年度)第 2 四半期)

琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第 16 条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき、琵琶湖および瀬田川で採水、水質分析を実施しています。このたび、北湖・南湖各一地点における平成 28 年度第 2 四半期分の水質概況速報をとりまとめましたので報告します。

なお琵琶湖・瀬田川水質は北湖 28 地点、南湖 19 地点の年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値は平均値等の代表値とは異なること、後日修正を加えられる可能性があることをご承知おきください。

### ◎調査方法について

北湖 28 地点、南湖 19 地点、瀬田川 2 地点の計 49 地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構および当センターで協力、分担し表層 0.5m での毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の水深別調査は、当センターにおいては北湖では今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約 90m 地点今津沖中央(通称「17B」)、他 1 地点、南湖では唐崎沖中央(通称「6B」)において、月 2 回実施しています。



### ◎調査結果について

当センターで分担実施している北湖湖心部の今津沖中央(17B)、南湖湖心部の唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成 28 年度第 2 四半期の水質概況は次のとおりです。

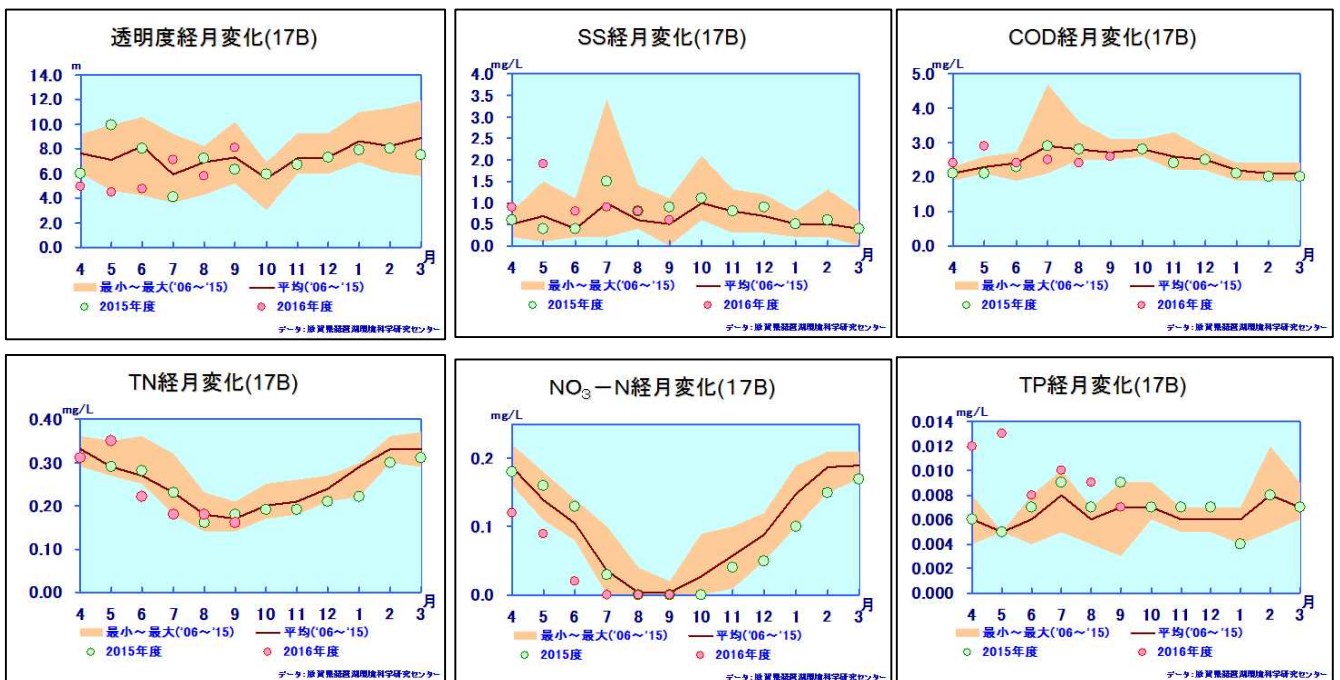
#### ○今津沖中央(17B) 調査結果

透明度については、7~9 月とも過年度(過去 10 年間)平均値並みとなりました。透明度に関連する項目である浮遊物質量(SS)についても、透明度と同様に 7~9 月は過年度平均値並みとなりました。

有機汚濁の指標である化学的酸素要求量(COD)については、7 月は過年度平均値並みでしたが、8 月は過年度最低値(2.5 mg/L)よりも低く(2.4 mg/L)となりました。9 月は過年度平均値並みの値でした。

全窒素(TN)は、7 月は 6 月に引き続き濃度が低く、7 月は過年度最低値と同値(0.18 mg/L)となりました。8、9 月は過年度平均値並みとなりました。全窒素の形態の一つである硝酸態窒素(NO<sub>3</sub>-N)は 7 月には定量下限値(0.01 mg/L)未満となり、枯渇した状態となりました。

また、全りん(TP)は 7 月は過年度最高値と同値(0.010 mg/L)となり、8 月は過年度最高値(0.007 mg/L)よりも高い値(0.009 mg/L)となりましたが、9 月は過年度平均値並みとなりました。



○唐崎沖中央(6B)調査結果

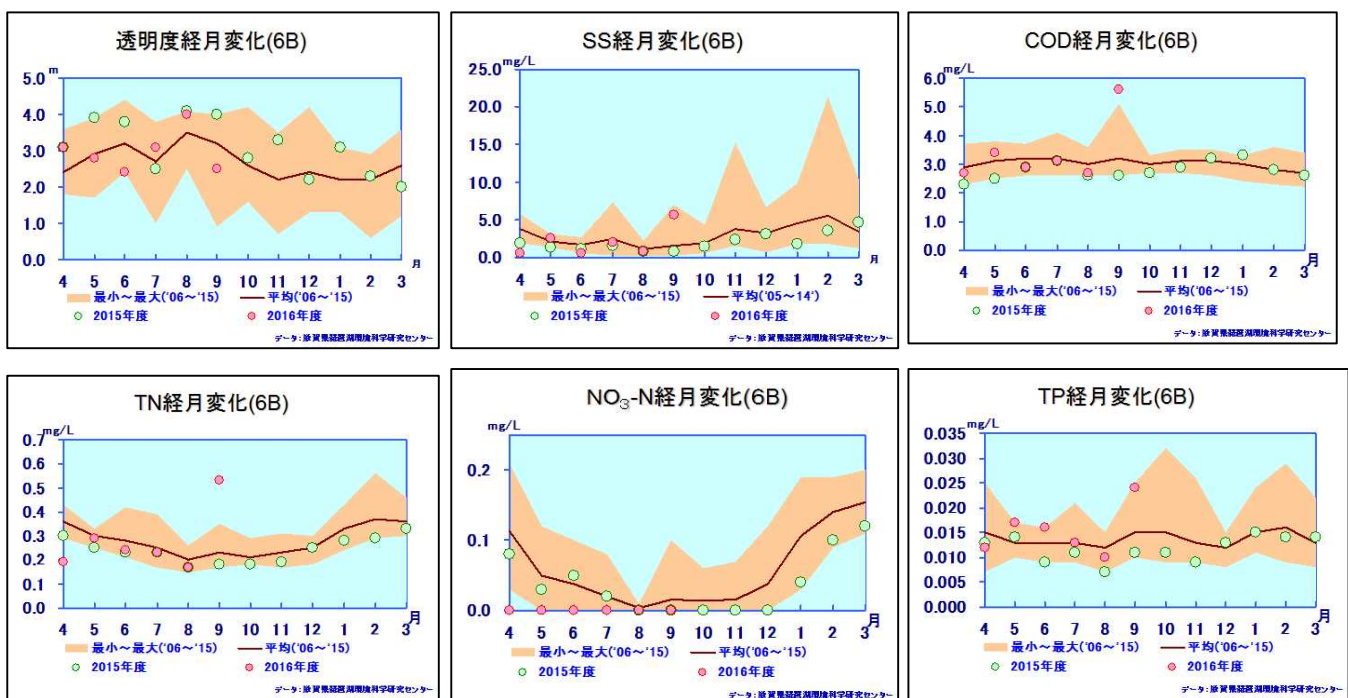
透明度については、7月は過年度平均値並みの値となりました。8月は過年度最高値(4.1m)とほぼ同値(4.0m)で全透でした。9月は過年度平均値よりも低くなりました。SSは7、8月については過年度平均値並みの値でしたが、9月は過年度最高値とほぼ同じぐらいの値(5.6 mg/L)となりました。

CODについては、7、8月は過年度平均値並みの値でしたが、9月は過年度最高値よりも高い値(5.6 mg/L)となりました。

富栄養化項目である全窒素(TN)は、7、8月は過年度平均値並みの値でしたが、9月は過年度最高値を大きく超える値(0.53 mg/L)となりました。硝酸態窒素(NO<sub>3</sub>-N)は7~9月とも報告下限値(0.01 mg/L)未満であり、枯渇した状態が4月から継続しています。

また、全りん(TP)は、7、8月は過年度平均値並みでしたが、9月は過年度最高値(0.025 mg/L)とほぼ同値(0.024 mg/L)となりました。

9月の各項目が高くなっているのは、植物プランクトンの増殖が原因の一つと考えられます。



《問い合わせ先》

〒520-0022 大津市柳が崎 5-34

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

環境監視部門 公共用水域係

TEL:077-526-4255 FAX:077-526-4803

E-mail: [de51400@pref.shiga.lg.jp](mailto:de51400@pref.shiga.lg.jp)